# チコちゃんに叱られそぅ～

幼少の頃､元日は外へ出かけることもできず家で静かに過ごさなければなりませんでした。騒いだりすると母から､「今日は歳神様(としがみさま)がおいでになっているから静かに過ごしなさい」と叱られ、歌うことも禁止、腹を立てて怒ることも禁止、その夜はお風呂にも入りませんでした。新しい年を穏やかにつつがなく暮らすために元旦はこのようにふるまうよう母から教えられました。

先ほど御登場の歳神様（年神様）は、古来よりお正月に各家庭に来訪される神様です。五穀豊穣や各家の長寿・家内安全・無病息災・商売繁盛を願うためにお迎えします。だから正月早々余所の神社へ初詣に行かなくてもよいのです。ちなみに歳神様がおいでになる方向を「恵方」と言い節分に海苔巻をかじる新行事もここから考えられたのでしょう。また、歳神様は神佛習合の教えや民間信仰からその家の御先祖様だと考えられています。あまり知られていないのですが、御先祖様は年２回里帰りをされます。夏のお盆には「佛」となって、冬のお正月には「神」となって里帰りされます。御先祖様が家を間違えないようにお盆は「迎え火」で、お正月は玄関前に「門松」を立てどちらも丁重にお迎えします。

歳神様になったご先祖様が恵方より里帰りされるのは大晦日の午後４時 30 分から５時頃と言われています。お迎えした歳神様にさっそく鏡餅や生の野菜等(海・山・里のもの)をお供えします。そして私たちも大晦日の晩御飯を歳神様になったご先祖様と一緒に楽しく食事をします。この「一緒に」というところに意義があります。だから大晦日の晩は年末年始を通して一番の御馳走を食べるのです。私のように年越し蕎麦だけで済ましてはいけません。

※(昔のドラマ仕立てだと思って読んで下され)

一夜明け新しい年です。家族は新しい着物を着て家長が待つ座敷に集まります。家長はお年玉として三宝にのせられた「里芋」を一人一人に本当に上から落とします。家族はそれを両手でキャッチしてありがたくいただきます。なぜ里芋なのかと言いますと歳神様の「霊魂」の形に似ているからです。お年玉は歳神様から分け与えられた「１年間を生きぬくパワーなのです！」昨夕方にお供えした供物を下げ「雑煮」を作ります。そこにお年玉の里芋もいれ「パワー」をいただきます。雑煮自体が「おせち料理」と言えます。平安時代の宮中では各節句の祝膳は雑煮であったそうで酒の肴として振舞われたそうです。後の時代にお年玉の里芋が丸餅になったそうです。関ヶ原より東にお暮しの皆さんも元旦の朝だけは四角いお餅ではなく丸餅をお雑煮に入れていただきたいものです。母から聞いたお正月の過ごし方です。　　俊徳丸